基準1. 理念・目的	組織名	文学部グローバル英語学科

2023年度（評価対象期間：2023年4月～2024年3月） 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に連関性がありますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)グローバル英語学科では「人材の養成・教育研究上の目的」として、「実用的な英語運用能力、豊かな対人コミュニケーション能力、幅広い教養や専門的知識を持ち、グローバル社会に対応することができる人材の育成を目的としている。そのため教育研究上の目的として、職業分野に応じた実務的な英語運用能力（ESP：English for Specific Purposes）を身に着けさせるため、2コース4履修モデル（「国際ビジネス」「観光・航空」「通訳・翻訳」「英語教員資格」）を設置し、各専門分野で必要とされる知識・技能・英語力・汎用的能力を養成すること」を理念として設定している。この目的はグローバル人材の育成を求める社会の要請に合致するものであることから、適切であると判断する。

(2)本学科では、ホスピタリティ・マインドを備え、他者と協調・協働して、身につけた知識・技能の実践によりグローバル社会の諸問題に対応することができる人材育成を目指していることから、自己を正しく捉えて、ともに生きるすべての人や社会に感謝し、その恩恵に報いる「報恩感謝」を建学の精神として掲げ、特に「広く各界に寄与し、人類の福祉と文化の発展に貢献する」という大学の教育理念・目的との間には適切な連関性があると考える。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
愛知学院大学 教育理念・目的及び各学部の「人材の養成・教育研究上の目的」（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/purpose1.pdf）
建学の精神「行学一体・報恩感謝」（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/guide/ideal/ideal.html）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)人材育成・教育研究上の目的については、愛知学院大学学則、第1章総則、第1条3により「本大学は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、広く社会に公表する」と定められており、その内容は「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」にて学部・学科ごとに明示している。

(2)学科の理念・目的、人材の養成・教育研究上の目的を、ホームページと履修要項に掲載し、教職員および学生に周知するとともに、社会に公表している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
愛知学院大学 教育理念・目的及び各学部の「人材の養成・教育研究上の目的」（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/2023/purpose1.pdf）
愛知学院大学学則（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/2023/gakusoku.pdf）
人材の養成・教育研究上の目的（2023年度文学部履修要項 p.31）

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。
自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5.「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、 「C：重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

基準2. 内部質保証	組織名	文学部グローバル英語学科

2023年度（評価対象期間：2023年4月～2024年3月） 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。 ※各学部・研究科の自己点検・自己評価委員会の年2回以上の開催及び委員会での取り組み内容について具体的に記載してください。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 文学部自己点検・自己評価委員会において内部質保証推進会議における審議事項について検討している。さらに学部での検討結果及び特に自己点検・評価委員会から指摘された事項については、学科会議において学科の委員が報告の後に学科構成員で検討し、改善に向けて取り組みを行っている。学部全体では、FD研究授業やFD研究会を実施して、授業や教育研究内容の改善・向上に取り組んでいる。学科としては独自のFD活動を行っており、各教員としては授業アンケート等を用いて、自己点検、自己評価を年度ごとに行って、改善・向上に努めている。また、必要に応じて、学生代表と教員の懇談会を行ったり、卒業生学科カリキュラム調査を行い、定期的に学科全体の点検・評価の参考にしている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
文学部自己点検・自己評価委員会議事録
2023年度FD活動報告書
2023年度文学部グローバル英語学科社会貢献FD報告会報告書（学科内資料: 2024. 1. 25開催）

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。
自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5.「基準2」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、 「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、 「C：重度な問題がある」から選択してください。	A

2023年度（評価対象期間：2023年4月～2024年3月）　自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)修得した科目における学修を通じて、国際社会の一員として社会の発展に貢献し得る国際経済、ビジネスに関する知識、異文化理解力と英語力、協調的な態度を身につけ、専門ゼミでの課題や卒業研究・卒業論文への取り組みにおいて、国際社会における問題や課題を発見し、これまでに獲得した知識・技能・態度等を活用し、主体的に情報を収集、分析、整理することによって、課題解決のための創造的な提案を行う能力を備えていると判断した場合に学位を授与する旨を、ディプロマ・ポリシーに明示し、大学ウェブサイト、履修要項にて公表している。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
「ディプロマ・ポリシー」（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/2023/diploma-policy01.pdf）
「ディプロマ・ポリシー」（2023年度文学部履修要項 p.34）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な連関性がありますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)グローバル英語学科の教育課程は、実用的な英語運用能力、国際的な教養や専門的知識、国際社会に貢献し得るホスピタリティ・マインド（おもてなしの心）を有する人材の養成を目標とし、編成している。この目標の実現のために、カリキュラム・ポリシーは次のような内容を踏まえて設定している。英語技能科目群、教養科目群、異文化理解・海外事情科目群、専門科目群（観光・航空科目群、通訳・翻訳科目群、国際ビジネス科目群、英語教育科目群）を入門から基礎、応用科目へと学年ごとに段階的に学修し、卒業研究・論文作成により、学修の成果を結実させる。授業形態は、学生が他者と協働し、主体的・能動的に学習することを促す教育方法を実施することを重視し、アクティブラーニング、学外の体験学修、ピア・サポートを積極的に取り入れ、実践している。また、大学ホームページ及び履修要項において、カリキュラム・ポリシーを公表している。

(2)グローバル社会に貢献し得る人材を養成するために、教育課程を編成・実施し、学修の結果として、十分な能力、資質を有する者に学位を授与すると定めている。したがって、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーには適切な連関性がある。授業科目とディプロマポリシーとの連関性はカリキュラム・マップにて学生に周知している。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
カリキュラム・ポリシー　（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/2023/curriculum-policy01.pdf）
カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー（2023年度文学部履修要項 pp.182-185）
カリキュラムマップ（2023年度文学部履修要項 pp.192-202）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 ＜学士課程＞　初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞　コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)英語技能科目群、教養科目群、異文化理解・海外事情科目群、専門科目群（観光・航空科目群、通訳・翻訳科目群、国際ビジネス科目群、英語教育科目群）を入門から基礎、応用科目へと学年ごとに段階的に学修し、卒業研究・論文作成により、学修の成果を結実させるという教育課程の編成・実施方針に基づき、学年毎に教育課程を編成し、授業科目を設定できている。

(2)1、2年次は教養教育科目を必修、3、4年次は専門科目を選択科目としてカリキュラムを編成している。また、学年ごとに段階的にTOEICの得点を向上させることを目標に、週6コマ程度の英語技能科目を必修として配し、習熟度別のクラス編成で個々の能力に応じた指導を行って、実社会で即戦力となり得る実用的な英語運用能力を養成している。さらに、1年次の異文化理解入門、2年次の海外事情科目、海外語学研修を必修とし、異文化理解力の養成と英語力の向上を図っている。専門科目については、分野ごとに2コース4履修モデルを設定し、学生の興味や将来の目標に応じて1年次から4年次にかけて入門、基礎、応用の順に学年ごとに段階的、かつ体系的に各分野の知識を深めながら、その分野において必要とされる英語力を高めることができるように選択科目として授業科目を開設している。

(3)上記(2)の科目内容を実施する際には、フィールドワークや調査、グループワークや討論、発表を中心とした学生主体の演習形式の授業展開によって、課題発見・解決力、論理的思考力、コミュニケーション能力などの汎用的能力を向上させ、4年次において、学びの集大成を卒業研究・論文にまとめることを必修としている。シラバスの相互チェックにより個々の授業科目の内容及び方法と、カリキュラム・ポリシーに整合性をもたせるよう確認している。

(4)1、2年次は教養教育科目を必修とすること、専門科目の入門・基礎科目を必修としている。3、4年次は専門科目を中心としてカリキュラムを編成している。また、1年次には、教養セミナー、基礎ゼミを設定し、初年次教育、高大接続に配慮している。

(5)全般としては、社会人として求められる豊かな教養と、幅広い視野に立って物事を総合的に捉える能力を養うことを目標にしている。また、社会で即戦力となり得る人材を育成するために、専門科目（「観光実務論」「国際関係論」「通訳法」「児童英語教育論」などのキャリア関連科目）において当該分野で必要となる英語の知識だけではなく、その分野の専門的かつ実務的な知識を教授し、実践的な授業を展開している。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー（2023年度文学部履修要項 pp.182-185）
シラバスチェック報告書（学科内資料）
2023年度FD活動報告書

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置（授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等）を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示）は適切ですか。 また、授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。 （教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 ＜学士課程＞ ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 ＜修士課程、博士課程＞ ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)各年度ごとに履修単位制限を44単位に設定し、単位の実質化を図っている。また、シラバスに授業時間外に必要な学習内容・学習時間を記載している。本学科の場合、英語技能科目が1単位であることから、卒業要件単位を満たすには多くの科目を履修する必要がある。その結果、資格課程科目については履修単位制限を超過して取得する必要があり、資格課程を履修する学生への負担が大きくなっている。

(2)シラバスの内容については、シラバスの入力後に相互チェックを行い、適切性を保持している。授業内容とシラバスとの整合性については、授業アンケートで設問を設けて確認しており、おおむね確保できている。

(3)多くの授業で教員手づくりのパワーポイントや音声・動画などの視聴覚教材を使った分かりやすい効果的な授業を行うための取り組みが実施されている。学生の主体的参加を促すべく、定期的に小テストを実施したり、課題、レポートを課して、予習、復習を徹底しているほか、授業中に、できるだけ質問を投げかけたり、プレゼンテーションをさせるなど、双方向の授業を意識的に実践し、学生が主体的に授業に参加できるような努力をしている。通訳翻訳系の科目や観光系の科目の中には、LA (Learning Assistant: ピア・サポート)を導入した学生中心のグループ学習、PBL演習（課題解決型演習）などを取り入れた学生の自主的な活動を促す実習中心のアクティブな授業も行われている。その実践方法、ノウハウは、学部主催の公開授業等の取り組みで共有している。

(4)英語技能科目の多くは20～30名前後でクラス編成し、学生個々の演習、授業への参加の機会を増やすよう努めている。講義形式の授業は選択科目であることから受講者数は一定ではないが、1講義あたり100名を超えることは殆どなく、適切な人数が保たれている。履修指導については、1年次には履修相談会を実施している他、教養部のアドバイザー制度に加え、学科でも基礎ゼミの担当教員が相談に応じており、2年次からは春学期の履修登録期間前にオリエンテーションを実施すると共に、主に2年次は語学研修の担当教員、3、4年次は専門ゼミの担当教員が相談に応じたり、履修指導を随時行っている。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
履修登録上の諸注意（2023年度文学部履修要項 p.39）
シラバスチェック報告書（学科内資料）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示し、公表していますか。	
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)大学の基準に則って、成績を6段階(AA:90点以上、A:80点～89点、B:70点～79点、C:60点～69点、D:30点～59点、E:29点以下)で評価するというGPAによる評価システムに従い、C以上の評価に対して、講義科目は2単位を、英語技能科目は1単位を認定している。既修得単位の認定は、履修要項に「単位認定」として示した上で適切に行っている。

(2)評価方法は当該科目の担当教員の裁量に任されており、定期試験に最も大きな比重を置く教員が多いが、小テスト、授業内活動への参加度、プレゼンテーションへの取り組みや発表内容、提出物など、複数の要素を評価対象としている。各項目の評価割合などの評価方法の詳細は講義概要、ウェブシラバスに明示されている。

(3)卒業要件については、履修要項に明示し、履修ガイダンスで学生に説明している。卒業論文の審査基準については、評価基準表を導入し、学生にその基準(「形式」「テーマの設定と提示」「論拠と議論」「文章力」「盗用と剽窃」「データ件数と収集」)など、それぞれの専門分野に応じたもの)を示している。

(4)

(5)卒業論文の審査においては、2名の教員(主査と副査)が評価基準表に従って卒業研究・論文の審査を行っている。学位審査及び修了認定は、教務課から提示された修得単位数と成績の一覧をチェックした上で、学科会議で審議した後、学部教授会での審議を経て、最終判定を行っている。

(6)上記、(1)～(3)、(5)の取組みを経て、各段階において、複数のチェック、審議等を経て、適切に学位授与を行っている。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
シラバス【ウェブ】
成績（2023年度文学部履修要項 pp. 20-23）
進級・卒業（2023年度文学部履修要項 pp. 24-25 ）
Sotsuron Evaluation Criteria （学科内資料）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。 （特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)英語学習の成果測定の指標としてTOEICを活用し、1年次は400点、2年次は450点、3年次には460点、4年次には470点を最低ラインの目標として設定している。履修要項にカリキュラムツリーを掲載し、科目ごとに履修することによって得ることが期待される学習成果を可視化している。一部の科目では、学習振り返りを学習カルテに記入することにより、学生自身が学習成果を自己評価できるようにすることを検討している。2022年度卒業生を対象として、予め定めた「ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法」に従って多角的な指標で成果を測定し、目標の達成状況について調査した。

(2)英語力の測定のために1、2年次は全員TOEICを年2回、3年次は全員年1回（600点に到達していない者は年2回）実施し、学習の進捗を把握している。一部の科目においては、ルーブリックによる評価や、学習の成果物によるポートフォリオ評価を実施したり、学習の進捗状況を学習カルテにまとめながら、学習成果を把握及び評価することを検討している。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
カリキュラムポリシー、カリキュラムツリー（2023年度文学部履修要項 pp. 182-185）
ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況（2022年度卒業生）（組織内資料）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)各教員は学期ごとに学生による授業アンケートの結果に基づいて、問題点の考察と改善案策定を行っている。学科としては、「ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況」に基づいて学習成果の測定を行い、教育課程及びその内容・方法が適切であるか点検・評価するとともに、達成目標に到達していない項目については改善策を検討している。また、2022年度「学修状況実態把握に関するアンケート」集計結果に基づいて、教育の質の向上のための検討を行った。さらに卒業による学科カリキュラム調査を通じて、学生の満足度や要望などを聴取し、適切性について点検・評価を行っている。

(2)毎週学科会議において教育上の問題点や課題について議論しており、翌年度の開講科目設定のあり方を含め、教育課程の編成・実施方針の適切性について検討、改善を行っている。また、学部FD活動の取組みと連動しながら、授業改善に取り組んでいる。教育課程の改善のために2021年度から新しいカリキュラムを施行している。新カリキュラムの特徴は、1年次から系統的なキャリア教育を開始し、3年次から「観光・航空」モデルを擁する「観光コース」と「国際ビジネス」「通訳・翻訳」「英語教員資格」モデルを擁する「英語キャリアコース」に分け、学生が目指す将来の進路に関する学びを深化するべく、特に「観光・航空」モデルと「英語教員資格」モデルの開講科目を充実させたことである。本年度はその新カリキュラム施行の3年目に当たり、コース分けが行われた。先に挙げた4つのモデルに分けた系統的なキャリア教育が行われている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。
根拠資料名
文学部自己点検・自己評価委員会議事録
ディプロマ・ポリシーに示した学修成果の測定方法、達成目標及び達成状況（2022年度卒業生）（組織内資料）
教育課程の内容、方法等の改善・向上に向けた検討の内容または結果（組織内資料）
令和5年度 教育の質に関わる客観的指標への対応：設問13「学生の学修時間・学修行動の把握」についての検討（組織内資料）
令和5年度　卒業生への学科カリキュラム調査結果を踏まえたカリキュラムの点検報告（組織内資料）

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。
自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。
根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
④(1)	これは教職課程の問題であり、学科固有の問題ではないが、教職課程の履修者は履修制限単位を超えて取得せねばならないため、学生の負担が大きくなっている。学科としては「英語教員資格」モデルを設定しているため、英語英米文化学科との話し合いをしつつ、英語科教育法を学科の専門科目として開講していくなどの措置が必要である。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
④(1)	英語科教育法は免許法の新法では専門科目及び指導法の区分となったため、英語英米文化学科に働きかけて、当該科目をそれぞれの学科の専門科目として開講することを検討する。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。
根拠資料名

5.「基準4」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、 「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、 「C：重度な問題がある」から選択してください。	A

2023年度（評価対象期間：2023年4月～2024年3月） 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて、(2)に記載する学生の受け入れ方針を設定し、入学試験要項及びウェブサイト上に公開している。

(2)学科が求める学生像等の内容を踏まえた学生の受け入れ方針を以下のように設定している。また、入学者選抜のための判定方法を策定している。①グローバル社会が求める英語運用能力を備え、円滑で豊かなコミュニケーション能力を身につけようという意欲や向上心を持っている人。入学時には実用英語検定準2級以上取得あるいは同等の英語力を有していることが望ましい。②グローバル社会における多文化や異文化に関する知識、ホスピタリティ力（思いやり力）、情報収集力、論理的思考力、問題解決力などの「汎用的能力」を身につけたい人。③グローバル社会における倫理観、自己管理能力、グローバル市民としての社会的責任等を主体的に協働して学ぶ意欲と熱意を持っている人。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
アドミッション・ポリシー（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/2023/admission-policy01.pdf）
入試ガイド2024（https://www.d-pam.com/agu/2311734/index.html?tm=1#target/page_no=52 p. 51）

基準5. 学生の受け入れ

組織名 文学部グローバル英語学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)学科の学生受け入れ方針に基づき、大学が定める学生募集方法及び選抜制度に則って、入試形態別の募集定員を明らかにし、入学者選抜を行っている。

(2)学部での慎重な判断の上に、全学の代表で構成される入試委員会で合格者数、得点等を明確にし、客観性と透明性を確保している。

(3)高等学校からの模擬授業や学科紹介の依頼に積極的に応じ、学生募集を公正に行っている。入学者選抜は各入学試験の方法に則って実施、採点、評価をしている。

(4)入学者選抜においては、必要に応じて、入学を希望する者への合理的な配慮の必要性を検討し、個別対応を行っている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
入試情報 (ウェブサイト https://navi.agu.ac.jp/examination/)
入試委員会規程(組織内資料)
入試委員会議事録(組織内資料)

基準5. 学生の受け入れ

組織名 文学部グローバル英語学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 ＜学士課程＞ ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 ＜修士課程、博士課程＞ ・収容定員に対する在籍学生数比率	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)2023年5月のデータでは、収容定員445名に対して学生数は463名で、比率は104.0%である。入学定員110名に対する入学者数は123名で、比率は111.8%である。編入学は、3年次1名で、年度によってばらつきがあるが、定員内に収まっている。入学者数、在籍学生数が入学定員、収容定員と乖離せぬように、過年度の入学試験結果と入学者数を踏まえ、入試委員を中心に検討を重ねている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
収容定員及び在学生数（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/teiin2023.pdf)

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)学生募集および入学者選抜については、入試委員会と入試検討小委員会で適正に行われるように毎年度審議と検証が重ねられている。

(2)学部の入試検討小委員会委員と学科の入試委員は、各委員会における検討内容を学部教授会と学科会議において周知し、必要に応じて学科で改善・向上に向けた取組みを審議し、決定事項や意見を両委員会に上げるように依頼している。本年度は、本学科のアドミッション・ポリシーに適した人材を発掘し、入学に結び付けるために、昨年度入試よりAO入試から高大接続型入試（事前体験型）へ移行し、本年度は英語資格特別入試を実施した。

〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
入試委員会議事録（組織内資料）
入試検討小委員会議事録（組織内資料）

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。
自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5.「基準5」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、 「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、 「C：重度な問題がある」から選択してください。	A

2023年度（評価対象期間：2023年4月～2024年3月）　自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）を適切に明示していますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)　学科としての教員組織に関する編制方針は、グローバル英語学科のカリキュラムの特徴や資格取得の目標等を考慮して適切に策定されている。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
教員・教員組織（組織内資料）
文学部グローバル英語学科　教員組織の編制方針

基準6. 教員・教員組織	組織名	文学部グローバル英語学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師又は助教）の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置（国際性、男女比等も含む） ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)本学科の日本人教員は、5月1日時点で6名、外国人教員3名であった。昨年度と同様に、教員定員が1名未充足であった。(3)に述べるように、教員の授業負担が昨年度と変わらないことから、2024年4月付で1名の採用人事を行った。

(2)文学部人事審査委員会を中心に、各学科からも状況説明を行いながら、教員人事（募集・採用・昇任）について計画的に実施している。本年度は、学科で審議の結果2024年4月付で、国際ビジネス担当の教員を採用することとなり、学部教授会、代表教授会にて承認された。今後は、学生募集定員とのバランスを考慮しつつ、適切な人員配置の検討を続ける予定である。

(3)本学科の教員構成は、日本人教員6名、外国人教員3 名で、内訳は客員教授1名、教授4名、准教授3名、外国人教師1名で、年齢別構成は60代4名、50代4名、40代後半が1名で若い教員が少ない。男女比は男性8名、女性1名で女性が少ない。国際ビジネス1名、観光・航空1名、通訳・翻訳1名、英語学・英語教育が3名で、外国人教員は3名で異文化理解、語学を担当してきた。観光・航空を担当する教員が退職したため、当該分野の授業については非常勤教員で充足している。専任教員1人につき半期あたりの担当コマ数は、最も少ない者は7コマ、最も多い者は11コマ、9コマ以上担当している教員が7名となっており、教員1人あたりの負担が重くなっている状況は否めない。
(4)本学科の教養教育は主として教養部が担当するが、英語については、本学科が必修の専門語学科目で教養教育としての語学学習を担い、両者が連携して適切に運営している。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
各学科における教員組織の編制の適切性について（組織内資料）
教員組織・教員数（ウェブサイト https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/data/kyosyokuinsuu2023.pdf）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位（教授、准教授、講師、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)採用人事または後任人事については学長の了解のもとで事前に学部の人事審査委員会での審議を経た後に公募を開始する。学科会議において「愛知学院大学文学部教授会規程」に基づく「愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程」によって応募者の中から候補者を選出し、人事審査委員会での審査の後に、学部教授会で教授は二段審査、准教授や講師は一段審査で厳正に審議される。その後更に学部長会議、代表教授会で審議された後に承認を得る。

(2)昇任については「愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程」に従って行われる。採用・昇格ともに人事審査委員会、文学部教授会、学部長会議、代表教授会で段階的に審議を重ねた後に承認される。以上のように基準や規定は整備されており、これに則って厳正かつ公正に人事を実施している。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
愛知学院大学文学部昇任・採用人事審査規程　（組織内資料）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的に実施していますか。 ・教育改善以外に研究の活性化や社会貢献等の教員に求められる 　諸活動について資質向上を図る取り組みの実施 ※学部及び大学院について、それぞれの内容に特化したFD活動を行っているか、併せてご確認ください。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	B

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)学生による授業アンケートの結果を基に、より良い授業実施に努めることを通じて、授業の質の向上が図られている。さらに学部全体でFD研究授業の期間を設けて、学科を越えて授業を参観してピアレビューをし合うことによって自分の専門分野以外の視点を得て、授業の改善に役立てている。また、年に1回全学ベースのFD委員会によるFD研究会に参加しており、学部横断的なFDの課題を共有し、改善に努めている。また、学科としては社会貢献FD研究報告会を実施し、社会貢献活動への関心を高めるよう努めている。さらに、卒業年次の学生に対する学科アンケート調査を通じて、カリキュラムの編成方針のみならず、教科書の選定、授業内容、授業の進め方などの意見を広く学生から求め、その結果について検討し、授業の質等の向上を図っている。
(2)現状では、学科として評価を行うような取り組みは行っておらず、個人による自己点検、自己評価と改善努力に負うところが大きい。しかし、学科としては社会貢献FD研究報告会の実施により、学科教員の社会貢献活動への機運を高める取り組みを行っている。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
2023年度FD活動報告書
2023年度文学部グローバル英語学科社会貢献FD報告会報告書（学科内資料: 2024. 1. 25開催）
令和5年度　卒業生への学科カリキュラム調査結果を踏まえたカリキュラムの点検報告（組織内資料）

基準6. 教員・教員組織	組織名	文学部グローバル英語学科

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)教員の専門分野については、専門ゼミの希望者数や、各授業の受講者数などから、学生が学びたいと希望している分野を考慮したり、教職課程の維持に必要な教員を適切に配置するように学科会議において定期的に検討を重ねている。

(2)学科会議において学科の理念・目的並びに教育課程の種類・性格、学生数との関係における教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、専任教員、非常勤講師の採用に反映させるように努めている。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
各学科における教員組織の編制の適切性について（組織内資料）

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。
自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
②(3)	専任教員の担当コマ数が多く、授業負担への適切な配慮ができていない。

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
②(3)	2023年度に採用人事を行った（2024年4月1日付で新任教員が着任の予定）。これにより、英語技能科目を担当する教員の負担はいくぶん減る見込みはあるが、まだまだ、十分ではないことが考えられる。今後の学生募集定員の削減とのバランスを見て教員定数を確定し、非常勤講師の採用等の措置を講ずる必要がある。

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
2024年度グローバル英語学科時間割（学科内資料）

5.「基準6」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、 「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、 「C：重度な問題がある」から選択してください。	B

2023年度（評価対象期間：2023年4月～2024年3月）　自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、「C：重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。 地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 本年度は日進市と連携して、日進市産業振興課などから講師を招聘し、日進市の観光まちづくりに持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）の企画提案、地元の自治体や企業との連携事業に取り組んだ。また、JR東海などの中部を代表する企業との産学連携による実践的な授業を展開した。さらに株式会社マイナビの課題解決プロジェクトに参加し、日本マイクロソフト株式会社、日本放送協会、日本電気株式会社などに企画を提案した。また、英語教員資格モデルでは長久手市教育委員会、瀬戸ソラン小学校との取り組みを行った。

(2) 上記のような現在行っている社会連携・社会貢献活動について、担当者から事業の報告を受け、学科内で社会貢献のFDに取り組んでいる。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
2023年度FD活動報告書
2023年度文学部グローバル英語学科社会貢献FD報告会報告書（学科内資料: 2024. 1. 25開催）

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A

〔現状〕　評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように（方法・指標）」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 学科内で社会貢献のFD活動を行い、社会連携・社会貢献の適切性について、毎年、点検・評価を行っている。

(2) 観光関連における社会連携・社会貢献は学内で推進されている社会連携センターおよび地方自治体（日進観光まちづくり協会）で実施される「PDCAサイクル」に基づくフィードバックによって毎年、改善・点検がされている。社会連携、社会貢献については観光分野に限らず、②(1)に示したように、ビジネス分野と英語教育分野での社会連携・社会貢献も継続して行うことが出来た。今後、それぞれの取り組みを点検・分析し、さらなる改善に向けた取り組み方法を検討したい。

〔根拠資料〕　上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
2023年度FD活動報告書
2023年度文学部グローバル英語学科社会貢献FD報告会報告書（学科内資料: 2024. 1. 25開催）

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。
自己評価欄を「S」とした場合は、必ずその内容を成果とともに記述してください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。 特にない場合は「なし」としてください。自己評価欄を「C」とした場合は、必ずその内容を記述してください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既に実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5.「基準9」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、 「S：極めて良好」、「A：良好」、「B：軽度な問題がある」、 「C：重度な問題がある」から選択してください。	A